

子育て広場に新しい遊具が仲間入り！

国際ソロプチミスト但馬から「幼児用滑り台」寄贈

国際ソロプチミスト但馬から、同団体の認証20周年を記念して、市内6カ所の子育て広場にテントウムシ型の「幼児用滑り台」などが寄贈されました。4月26日、本庁舎前の子育て広場で、27日には、城崎子育て広場と日高子育て広場で、遊具の「おひろめ会」を開催しました。

本庁舎前の子育て広場では、多くの市民らが見守る中、同

団体の関係者と子育て総合センターの子どもらが除幕を行い、豊陵保育園の園児55人が、かわいい歌でお礼の気持ちを伝えました。その後、園児らはさっそく滑り台で初遊び。広場いっぱい元気な声を響かせました。

竹野、出石、但東の3地域は、7月の子育て広場のオープンに合わせて遊具を設置し「おひろめ会」を行います。



▲寄贈された遊具で遊ぶ子どもたち

大型クルーズ客船「にっぽん丸」が本市に初寄港

歓迎式典と市民船内見学会を開催

4月30日、大型クルーズ客船「にっぽん丸」(商船三井客船株)が、日本一周クルーズの寄港地の一つとして、本市に寄港しました。

にっぽん丸は、全長166.6m、全幅24mで、総トン数2万2472トン。26日に横浜港(神奈川県)を出港し、天草(熊本県)や伊万里(佐賀県)を経由して本市に寄港しました。大型のため津居山港には入港することができない

同船は、津居山沖に錨泊。乗客は、テンダーボート(補助船)を使って上陸し、城崎温泉や城下町出石を巡るツアーなどを楽しみました。

船内では、市主催の歓迎式典を実施し、船長に寄港記念の盾を贈呈しました。その後、市民船内見学会が行われ、576人の申込者の中から選ばれた約40人が、ホテルのよ



▲津居山沖に錨泊する「にっぽん丸」

新たに任命された教育委員会委員

平成26年5月に就任した教育委員会委員の中川 茂氏の任期満了に伴い、市議会の議決を経て、5月17日付けで、新しい委員に飯田正巳氏が就任しました(任期は4年)。

【教育委員会委員】(敬称略)



飯田正巳

主な市政の動き

【4月】

15日・豊岡Uターン就職フェア in大阪(大阪市)

26日・豊岡子育て広場寄贈遊具おひろめ会(27日・城崎・日高子育て広場)

・日本海縦断観光ルート・プロジェクト推進協議会設立総会(千代田区)

28日・市立美術館「伊藤清永記念館」特別展「CANETTE(カネット)・稲葉猛作品展」(7月1日)

30日・大型クルーズ客船「にっぽん丸」本市初寄港
・公益財団法人舞台芸術

【5月】

財団演劇人会議大会 / 利賀演劇人コンクール 2017 授賞式

1日・豊岡市公営企業審議会
・近畿大学と連携した「バス路線等公共交通再編調査」(平成31年3月)

2日・市議会全員協議会
・春季市政懇談会(豊岡、8日・竹野)

6日・S A A B機コウトリ但馬空港最終フライト
7日・A T R機コウトリ但馬空港初就航
11日・第97回水道まつり

上水道の生みの親・中江種造翁の遺徳をしのび、水の恵みに感謝！ 「第97回水道まつり」開催

大正11年、当時の豊岡町に上水道が完成し、その資金の全額(町予算の1.6倍)を寄付されたのが、寿公園(泉町)に銅像がある中江種造翁です。市では、中江翁の遺徳に感謝するとともに、水の恵みと大切さを再確認するため、同年から毎年「水道まつり」を行っています。本年も通水を開始した5月11日に、同公園で水道まつりを開催しました。

当日は、市民や市の関係者ら約120人が参加。中貝市長は「水道への感謝、水への感謝に、毎年思いを寄せることができるのも中江翁の大きな貢献です」などとあいさつ。参加者が、順番に銅像に献花した他、裏千家淡交会(但馬支部)の協力で、当時の水源として使われた二見(城崎町上山)の水を使用して、たてた茶を銅像に献茶しました。



▲中江種造翁の銅像に献花する参加者

国内トップ選手が地域と交流！ ボート日本代表選手が城崎中学校ボート部員指導

4月9日から28日の20日間、昨年に引き続きボート日本代表選手が、円山川城崎漕艇場を拠点に強化合宿を行いました。19日には、滞在中の代表選手のうち13人の選手が城崎中学校を訪問し、ボート部員と交流を図りました。

普段、陸上のトレーニングで使用しているボート漕ぎの模擬マシンを使って技術指導を受けた部員は、選手が披露した見たこともないボート漕ぎのスピード感に驚くばかり。代表選手は、練習方法などをアドバイスしました。その後、部員と選手は、競技に取り組む姿勢や、学校での生活態度などについて意見交換。最後に、日本代表コーチのギザビエさんから「目標を定めて楽しみながら競技に取り組んで欲しい」との熱いメッセージが送られました(下段の「中貝市長の徒然日記」に関連記事あり)。



▲城崎中学校ボート部員に指導する日本代表選手

中貝市長の徒然日記 (127)

頑張れ、日本ボートチーム！

4月9日、ボートの日本代表チームが、2年連続で城崎にやってきました。フランス人コーチ・ギザビエさん率いる、27名の精鋭たちです。23日には、さらに23歳以下のチーム14名が合流しました。ギザビエさんはシドニー五輪の金メダリストで、20日間の強化合宿です。

円山川はボートに最適と言われています。河川勾配は1万分の1。10km上流に行くと高低差1m。流れはとても穏やかです。横風がなく、宿からコースに歩いて行けて、風景はあくまでも美しく、ふと空を見上げると悠然とコウノトリが空を舞っています。しかも、うっかり川にはまっても、すぐに温泉で体を温めることができます(このくだりは、昨年東京でお会いしたフランスボート協会の会長にも、フロリダでお会いしたフランス代表チームのコーチにも受けました)。

円山川は10km連続して漕ぐ

ことができ、選手強化にうつてつけです。こんな川は日本には他にありません。往復20km。コーチは喜び、選手には苦行、というコースです。

恐るべし、選手の食欲。差し入れた大量の但馬牛は、あっという間になくなりました。昨年9月、ニューヨークでコウノトリ米販促活動の後、世界選手権開催中のフロリダに足を延ばしました。日本チームのホテルを訪れ、コウノトリ米のバックご飯と但馬牛をぼろ、竹野・誕生の塩を差し入れ、たいそう喜ばれました。フランスでの1か月半の合宿に続く世界選手権でした。日本食に飢えていたので。

後日、コーチからメールが届きました。「お陰様で、チームは過去最高の成績でした」。さらに後日、「コウノトリ米を海外遠征に持っていきたいのですが」「おお！」

要請を受けて、今、J.Aと共同で200kg提供する準備を進めています。その代わり、メダルを取ったら「コウノトリ米のおかげです！」と、満面の笑みでPRしてくださいね。

2~3

今月のイチオシ

4~5

市政ニュース

6~20

クロースアップ
豊岡

21~27

くらしの情報

28~29

保健行事

30~31

図書館・つどいの広場

32~33

主な相談・主な行事